

所 報

第 26 号 1996 年 5 月発行
発行人 翁 長 良 盛
発行所 沖縄県立教育センター
〒904-21 沖縄県沖縄市字与儀587番地
電 話 098-933-7555
F A X 098-933-3233

あいさつ

所 長 翁 長 良 盛

去る5月31日に河野重男先生（東京家政学院大学長）をお招きして、「21世紀を展望した教育と学校」の演題で特別講演会を開催することができました。

ご案内のとおり、河野先生は第15次の中央教育審議会の第1小委員会の座長であります。

「日本の教育の顔」として広くご活躍の先生を当教育センターにお迎えし、「生きる力とゆとり」を基本的な考えとした審議の内容にもふれながら、これからの教育の方向性等を直に拝聴することができ、所員・研修員は勿論ご参集いただいた近隣の教育関係者に大きな示唆を与えて下さいました。

ところで、大きく変化していく時代の流れと本県の地理的位置を考えた場合、県立教育センターの役割と責務を十分に果たしていくためには、日本全体の教育の動向、各県の状況及び本県の実態を的確に掌握し、これらの情報を各学校や教職員に速やかに提供できるようにするこ

とが大事なことではないかと考えております。そのため、日頃から研究成果や教育情報の「豊かな蓄積と適切な発信」に努めているところであり、今回の特別講演会もその趣旨から開催したものであります。

「豊かな蓄積と適切な発信」の在り方についてはまだ多くの課題があり、今後とも創意工夫と尚一層の努力を重ねていかなければならないと考えております。

今回、その一環として「所報」の在り方を見直し、年1回の発行から年6回の発行にすることにいたしました。また、内容についても各研究室を中心にして情報提供していきたいと考えております。



目 次

所長あいさつ	- 1 -
「研究室だより」	
【初任者研修研究室】さわやかにスタート！初任者研修	- 2 -
【へき地教育研究室】複式学級担任講座を終えて	- 3 -
【算数・数学研究室】教材（学習材）の見方を広げよう	- 4 -
シリーズ①【理科】生きものたちの生活を通して教育を見る	- 5 -
【国語研究室】国語科とT T	- 6 -
平成7年度刊行物紹介	- 8 -

研究室だより

【初任者研修研究室】教科経営研修課

さわやかにスタート！初任者研修

こちらは、初任者研修研究室です。初任者研修制度について概略を説明します。臨時教育審議会の「教育改革に関する第二次答申」（昭和61年4月）を受けて、県教育委員会は、これにそって昭和62年度に試行を開始し、その後、平成元年度の小学校の実施から平成2年度の中学校、平成3年度の高等学校、平成4年度の特設教育諸学校での本格実施で制度的に完成しています。研修は1年間、校内における研修（年間60日程度）と、校外における研修（年間30日程度）および文部省が直接実施する洋上研修で構成されています。校外研修の実施については、これまで高校教育課と教育センター、および義務教育課と各教育事務所、各市町村教育委員会で実施してまいりましたが、平成8年度からは高等学校と特設教育諸学校についての校外研修はすべて、教育センターで実施する運びとなりました。さらに、小学校、中学校合同の校外研修（年間6日）も教育センターで実施することになり、今年の2月より、教育センター内の多目的ホール2階の一室に初任者研修研究室が設けられました。現在、主任研究主事1人、指導主事1人、研究員4人の6人のスタッフで頑張っています。

次に、県立学校の初任者研修についての4月からの取り組み状況を紹介します。まず、去る4月1日午後2時より沖縄グランドキャッスル（首里の間）において、初任者研修開講式が行われました。初任者研修のスタートということで、研修の円滑な実施、研修体制や研修計画および心得を確認するという目的で実施されました。校長、指導教員、教科指導員、および初任者（高等学校初任者数130人、特設教育諸学校初任者数31人）を一堂に会してのものでした。開講式の初任者決意表明で述べられた山城尚彦教諭（北谷高校）の「一人ひとりの児童生徒の可能性を信じ、それをうまく伸ばしていけるような教師になりたい」という言葉はとくに印象的で、私たち担当者も身の引き締まる思いをいたしました。その後、引き続き、第一回初任者研修会が開かれました。

さらに、4月3日には教育センターでは最初の初任

者研修が、特設教育諸学校の「心身障害児の理解」という研修項目で実施され、緊張と不安の中に期待が入り交じった先生方の表情が印象に残っています。

また、4月25日には本島内の高等学校と特設教育諸学校の初任者研修がそれぞれ「教材研究の方法と実践」、「年間指導計画の作成」という研修項目で実施されました。とくに高等学校の研修会では、前半60分の全体会と後半90分の分科会（各教科）という形で行われました。全体会では、当教育センターの大城章研究主事から「教材研究の重要性とその進め方」と題して熱のこもった講義をいただき、初任者の先生方からもとても好評でした。

後半の各教科ごとの分科会を持つにあたっては、統一した持ち方と同一の水準の内容を検討する必要があるということで各教科講座担当主事会を持ち、検討を重ねて統一した持ち方で分科会を実施することにしました。分科会では即実践に役立つ内容とあつてか、どの分科会でも先生方の意見や質問が活発に行われたとの報告がありました。

最後に、当教育センターが受け持つ主な初任者研修を紹介しますと、基礎的素養、教科指導、ホームルーム経営、生徒指導、進路指導の5つの領域に分けられます。基礎的素養の主な研修を挙げますと、ボランティア体験研修、企業体験研修、沖縄の伝統文化に関する研修、国際理解教育に関する研修、心身障害児の理解に関する研修、さらに、夏休みの宿泊研修（4泊5日）等があります。月に平均2回の研修ということになりますが、初任者研究室としましては初任者の先生方の声に耳を傾けながら、より充実した、より実践につながる研修をめざして1年間取り組む所存です。



研究室だより

【へき地教育研究室】教科経営研修課

複式学級担任講座を終えて へき地教育の充実

沖縄県の小学校のうち、へき地指定校は101校で、これは全小学校の36.4%を占めています。さらに、この中の57%近くが複式学級設置校です。へき地校の教育の充実を図ることは本県教育の課題の一つであり、複式学級における学習指導の充実が求められています。

このような状況をふまえて、へき地教育研究室では「複式学級担任研修講座」を4月14日、15日の両日実施し本島や周辺離島から20名の先生方が参加しました。研修内容は初日はVTRでの複式学習指導についての講義、石垣市立川原小学校の仲座初枝先生の「ガイド学習の実践」と題しての講話、2日目は伊計小学校の知花伸雄先生の5、6年複式授業の参観、午後からは「へき地教育情報ネットワークの活用」についての講義と実習を実施しました。

複式学習指導

- 指導過程は課題把握（つかむ）、課題追及（調べる）、定着（確かめる）、習熟応用（深める）の問題解決的学習の4段階指導過程で実施されている。
学年別の指導をするためには、指導の段階をずらすことが必要……………「ずらし」
直接指導と間接指導を交互に行う……………「わたり」
- 複式学級では、ある学年を教師が直接かかわって指導する間（直接指導）他の学年は課題を解決するために自学自習（間接指導）を進めることになる。
したがって、主体的に学習する態度を育てることがより大切である。
- 間接指導は複式学級のマイナス面としてとらえる

のではなく、主体的に学習する態度を育成する絶好の機会であり、プラス面としてとらえ直すことが求められている。間接指導の充実を図るために「ガイド学習」等の実践が行われている。

- 2個学年の指導内容の配列を工夫し、類似内容で指導し両学年に共通する学習場面をできるだけ設定する必要がある。

ガイド学習

- ◇ 複式指導の中で生じる間接指導（自学自習）をより効率的に行うために考えられた小集団学習の一つの形態である。ガイドとは、学習の案内役という意味であり、児童の中からガイド役が出て、教師の指導のもとに立てられた学習進行計画によってリードしながら共同で学習していく方法である。

◎ ねらい

発表の仕方、聞き方、話し方、学習の進め方を身につけさせる。学習の仕方を理解させ、自主的・自発的な学習態度を養う。思考の多様化、深化をはかり、集団の質を高める。助け合い、協力し合う中で連帯感を養う。

◎ 育成

低学年から高学年にかけて、教師の口まね
→指示カード→指示表→指示黑板→メモで学習の進行ができるようにする。

講話の中で、仲座先生は長年の複式学級での実践から、①ガイド学習は自主的・自発的な学習態度を養うことができ、間接指導の充実が図れること、②ガイド学習は単式学級でも可能で、現在実践していること、③算数科だけでなく、他の教科でもガイド学習ができることなどを話され、受講者に大きな感銘を与えました。

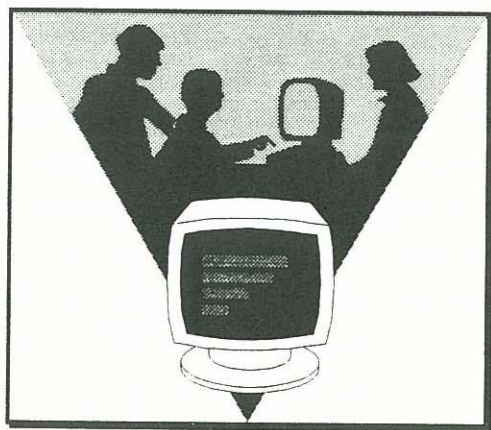


授業参観

- △ 授業者 与那城町立伊計小学校 知花伸雄先生
5年「整数と小数」6年「分数のかけ算」の算数科学年別指導で、間接指導時にコンピュータを活用した授業は、複式学級を初めて担任する先生方にとって大いに参考になりました。知花先生大変ご苦労様でした。
- △ 指導案はへき地教育情報ネットワークにのせてありますので、利用して下さい。

へき地教育情報ネットワーク

- ◇ 実際にへき地教育情報ネットワークに入り、自分で自校のFAXに出力する実習が行われました。操作は以外に簡単であるとの声が多く、印刷が鮮明な指導案を取り出すことができました。8月に実施予定の2回目の講座でも、再度実習を計画しています。
- ◇ へき地校は情報が不足しがちです。へき地教育情報ネットワークより、複式学習指導案、研究紀要等を取り出し活用しましょう。利用するには、「へき地教育情報ネットワークへのアクセスのしかた」(昨年10月に複式学級設置校あて送付済み)を読んで下さい。
- なお、この「複式学級担任研修講座」は本島と同様に5月14日～17日まで、宮古・八重山でも開催されました。



研究室だより

教材(学習材)の見方を広げよう

No. 1

【算数・数学研究室】

研究主事 大 城 章

1 はじめに

子どもの主体的な学習を促すためには、多様な「材」が必要です。これまでの「材」は「教えるための材」すなわち「教材」であり、教科書は「主たる教材」として位置づけられています。しかし、これからは教師が子どもに教えるための教材としての役割の他に、子どもにとって「学習材」であることが求められています。

2 学習内容のつながりを見通した活動を考えよう

平成7年度小学校算数達成度テストにおいて、正答率が26.9%と最も低かった問題は、下に示した5年生の「正多角形」の問題です。(図1)

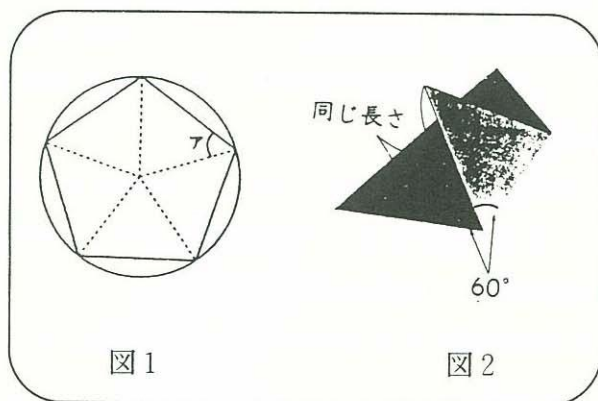


図 1

図 2

誤答を調べると「72度」と答えた子どもが多いです。その原因として、中にある三角形がどんな三角形で、どのような性質をもっているかを理解していないからだと考えられます。ここで、手元にある6社の教科書の「円と正多角形」の単元構成を見ながら考えてみます。

6社の「円と正多角形」の導入の仕方を較べると、次のように大別できます。(平成8年度版)

○色紙を折り、切る活動等から正多角形を作る。

○数種の正多角形から特徴を見つける。

大多数の教科書は、折ったり、切ったりしてできた図形の特徴を調べ、それぞれの辺の長さや角が等しいことから正多角形の定義をし、その次に円（中心の周りの角は 360° ）を使って正多角形の書き方を考え、その後、いろいろな角度を求める構成になっています。

その流れの中で、どんな三角形ができるかという追求する場面をどこに位置づけるかです。つまり、ここでできる三角形は二等辺三角形で、特別な場合として正三角形（正六角形）があるという「子どもの気づき」を促す学習材として、教科書のどこにポイントを置き、子どもが主体的にかかわれるようにするかです。追求する場面を学図を参考に考えてみます。

- ① 導入時の「折る」「切る」ときの条件（同じ長さ、同じ角の大きさ 図2）とできあがった正多角形の辺や角との関連を見つける。（単なる作業から知的活動へ）
- ② 普通の多角形と違いを調べる。（正多角形の定

義の明確化と多角形の内角の和）

- ③ 三角形はどんな三角形だろうか調べる。（二等辺三角形の底角、多角形の内角）
- ④ 教科書にない正多角形の折り方やかき方を考える。

さらに、円の面積の求め方を考える素地づくりとして、頂点の角が 30° の合同な二等辺三角形などを準備し、しきつめることでも正多角形ができることを示したいものです。

3 おわりに

2・3年生からはじまる折り紙を「折る」等の多様な活動（しきつめ等）は、図形に対する豊かな感覚を育成するばかりでなく、後々の活動を数学的に考えることに深く関わってきます。

今の学年、今の単元だけじゃなく、他学年との学習内容のつながりを見通し、子どもの柔軟な発想を大切にし、思考を深める活動を大切にしたいものです。

シリーズ①生きものたちの生活を通して教育を見る

…人間は、生きている限り学習をしなくっちゃ！…

【理科研修課長】

上 門 清 春

本センターの花園や緑地帯には、トウワタやリュウキュウコスミレが所狭しと生えています。それらの植物を年間通して観察してみると実に自然界の不思議な仕組みを垣間見ることができます。春先から梅雨のころに、それらの植物は十分な水分と栄養を取ってグリーンと成長します。ところがある日ある時、トウワタの枝には一枚の葉もなく、立ち枯れかと思われる光景を見ることがあります。ところが枝を折ってみると幹は生きていて、間もなくすると新芽がでるので、立ち枯れでないことに気づきます。トウワタはカバマダラというチョウの幼虫の食草（餌）なので、常にカバマダラに食われる運命にあります。それに対しカバマダラは、トウワタに産卵し、孵化した幼虫はトウワタの葉を食べて成長・羽化しチョウになるのです。そこで、常に食われる運命にあるトウワタは、長い進化の道筋で「生きていく力」すなわち、種族を維持していく戦略を獲得してきました。それは種子の形態に見ることができます。種子には長い綿毛を付け、風に乗って遠くまで飛ばされて分布を広げていく形態、「生きていく力」を獲得したのです。また、カバマダラが、食草であるトウワタに産卵する行動などは、生まれつき備わっているもので、本能であり、生物学的行動であります。生物学的行動は、勿論、ヒトにもあります。赤ちゃんが口の近くを指先で触れられると大きく口を開きます。それは、野鳥の雛が親鳥が巣に戻ってくると、大きく口を開けて餌をねだる行動と全く同じもので、生物学的なヒトの側面なのです。ところが、人間には他の動物と違うもう一つの特徴があります。それは、文化を持つということです。文化は、何らかのかたちで学習しなければ身につかないものです。したがって学習なしでは社会生活を営む人間にはなれないということです。問題は学習の質であり、言い換えれば手のかけ方です。植物の種子が発芽し成長し、やがて開花結実していく過程と土器などが完成していく過程の中に、学習や教育の方法の違いがあるのではないかと思います。

そこで、それらの思いを自然界の生きものたちの生活を通して、「生きる力」を育てる教育とは何かを考えてみたいと思います。

研究室だより

【国語研究室】

石 垣 皓 次



国語科とT T

算数・数学や英語にくらべ、国語へのT T導入は遅れています。教材解釈に幅があることなどが、画一的な授業展開にこだわる一因になっていました。しかし、児童生徒は、多様な読み取りから一人一人違った感動を持ちます。国語科でも、個性を尊重し自己実現に結びつく学習過程を設定していくことが大切であると思います。そのためにはT Tは有効な方法であり、実践の積み重ねと改良工夫が求められているところです。

T Tの指導形態としては、①習熟度別学習、②課題選択学習、③コース別学習、④興味・関心別学習などが考えられます。従来は、①の習熟度別学習の型が多く、県内でも玉城村立玉城中学校から実践報告がなされています。以下にそれを示します。

国語科学習指導案（ティーム・ティーチング）

生 徒：玉城村立玉城中学校1年

指導者：玉城千津子、井上 律子

1. 教 材 「どうぞよろしく」—自分を知らせる。
2. 指導目標 原稿用紙の使い方を徹底して指導する。
3. 指導計画 第一時：プレテストを実施する。（生徒の実態を把握する）

・実態をもとに4グループに分ける（プレテストの結果）
 1グループ（原稿用紙の使い方、6項目できていない生徒）
 2グループ（ ” 4項目できていない生徒）
 3グループ（ ” 2項目できていない生徒）
 4グループ（原稿用紙の使い方が正しくできている生徒）

第二時：個別指導を実施し、原稿用紙の正しい使い方を認識させる。

・表現I（自分を知らせる）の文章を原稿用紙に清書させる。

ポストテストを実施する。

生徒全員が正しい原稿用紙の使い方ができているか。

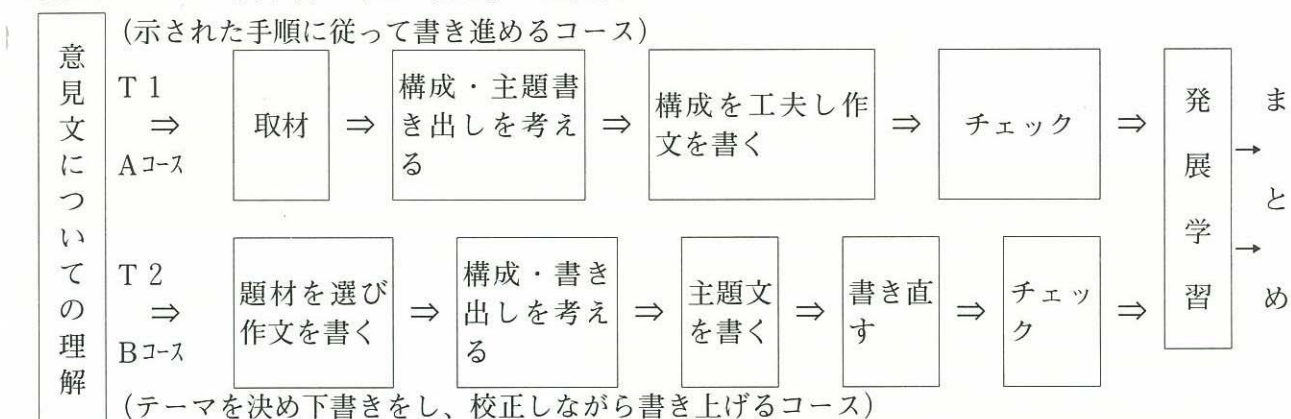
4. 本時の展開

	学習活動	形態	指導上の留意点	T 1・T 2の動き	時間
導 入	1. 今日の学習のめあてを確認する。	一斉	・何を学習するのか、めあてをしっかりと確認させる。	T 1…説明をする。 T 2…説明を聞く指導をする。 ・本時の学習活動を明らかにし、次の学習に自ら取り組む態度を育てる。	5分
展 開	2. 原稿用紙の使い方を確認する。	グループ	・原稿用紙の使い方を確認し、文字を正確に書くように指導をする。（鉛筆を使う）	T 1…説明をする。 T 2…説明を聞く指導をする。 ・正しい姿勢 ・鉛筆を持っているかの確認 ※原稿用紙の黒板を活用する。	40分
	3. グループでそれぞれ	グル	・プレテストの結果、	T 1…説明をする。	

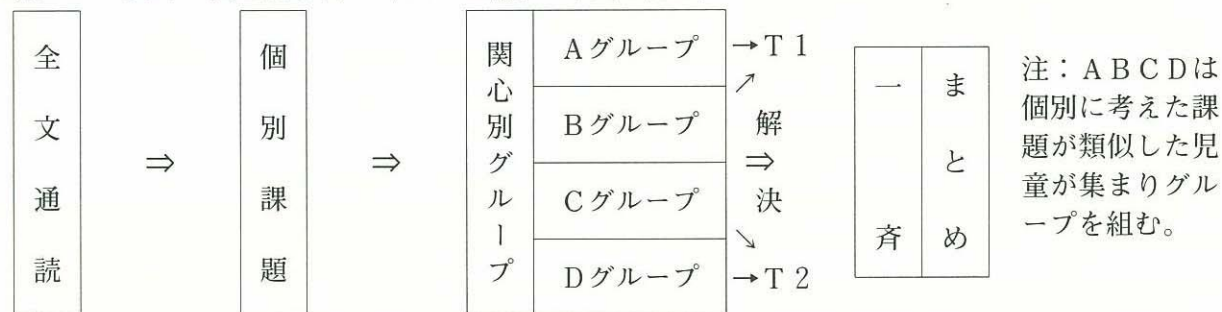
展 開	れ各自の作文を清書する。	ー プ	習熟度別に4グループに分け各自の課題に取り組ませる。 ・ノートに下書きをした作文（自分を知らせる）を、原稿用紙に清書させる。	T 2…説明を聞く指導をする。 T 1…1・2グループを巡視し、できたかどうかチェックし、支援する。 T 2…3・4グループを巡視し、できたかどうかチェックし、支援する。 ※T・T補助簿を活用する。	40分
ま と め	4. まとめをする。 （原稿用紙の正しい使い方ができたか確認する） ※ 次時予告	一 斉	・全員が原稿用紙の使い方ができたか確認させる。 ・発表をさせる。	T 1…説明をする。 T 2…説明を聞く指導をする。	5分

今後は、単元の特徴等も考慮して、②の課題選択学習の型や、③のコース別学習の型・④の興味・関心別学習型の開発も視野に入りたいものです。以下に例示します。

<例1> コース別学習 「A 表現」 意見文



<例2> 興味・関心別学習 「B 理解」 文学的文章



なお、[言語事項]については、習熟度別学習が適していると思います。

学習指導案についても、さまざまな創意工夫がなされると、さらによいものができることと思います。以下の例では、T 1 T 2の役割分担や児童生徒の学習活動を明確にし、テーマとの関係を記しています。参考にしてください。テーマとの関係の欄には、本時のねらいの達成のため、教材の見方・考え方や学習者個々のよさをみつめる手立て、評価の規準等を、できるだけ具体的に書いていくことにします。

段階	T 1の支援	学習活動	T 2の支援	テーマとの関係	形態	時間
つかむ				見方・考え方・学び方	一斉	8

ところで各学校では、加配がないのでT Tの指導がしづらいとの悩みを抱えていることでしょう。しかし、知念村立知念小学校のボランティアT Tの実践例が示すように、お互いの知恵を出し合う余地は十分にあると思います。特に、教科専門性に立脚している中学校においては、協力的な教育を推進する上で、単元の特徴等を踏まえ、T Tを取り入れることが効果的である場合が多いと思われます。積極的にT Tを導入したいものです。

平成 8 年 3 月 発行

「研究紀要」第 7 集の紹介

生徒相談

生徒一人一人の豊かな人間形成を目指す指導・援助の在り方
～その基礎的研究；高校生の学校生活意識・態度・行動に関する調査研究～

進 路

初任者研修に見る進路指導の現状・課題及び対策

教育工学

沖縄県における県立学校教務主任研修会
～より望ましい研修会の一試案～

社 会 科

「個を生かし自ら学ぶ力を育てる社会科学習指導法」の基礎的考察

音 楽 科

創造的な表現の能力を伸ばす学習指導の工夫
～高校音楽Ⅰにおける郷土の音楽を通して～

算 数

子どもの発想を広げ、深め、伸ばす算数科指導法の工夫
～小学校 6 年度「立体」授業実践の分析を中心に～

特殊教育

特殊教育諸学校における初任者研修の成果と課題
～養成教育段階で特殊教育を履修しなかった初任者の意識調査を中心として～

理 科

水生生物による水質診断
～生物を通して水環境の変化を知る～

理 科

遊びを通じた野外学習技能の訓練
～ファックス通信を活用して～

情報処理

総合実践システムの活用について

情報教育

教育センター内教育情報ネットワーク

情報教育

教育情報ネットワークとデータベース

情報技術

単元「生活と科学」における授業改善の工夫
～Visual Basic for Windows によるマルチメディア活用教材の作成～

情報技術

ローカルエリアネットワーク

「研究紀要」については、各学校へ送付してあります。

また、「平成 7 年度前期・後期長期研修員の研修報告集録」と「平成 7 年度学習指導と評価の構想・展開の視点」も送付してありますので、各学校でご利用くださいますようお願いいたします。